

# インドシナ地域における農学・獣医学系大学でのアウトリーチ活動の現状と協力：普及の理論と検証

九州大学(共同実施機関：東京農工大学・宮崎大学)

## アウトリーチとは

ある組織や団体がその内部での考えや実践を外部の機関、団体、もしくは一般に対して広げる活動。単なる知識の普及というよりも、双方向的なやりとりを基本とする実施枠組みが主流。途上国の大学では、地域発展の拠点となるため、大学の使命としてアウトリーチ活動が組み込まれている。日本の大学の国際教育協力を効果的に推進していくためには、アウトリーチ活動についての理論と現状を把握すること必要不可欠。



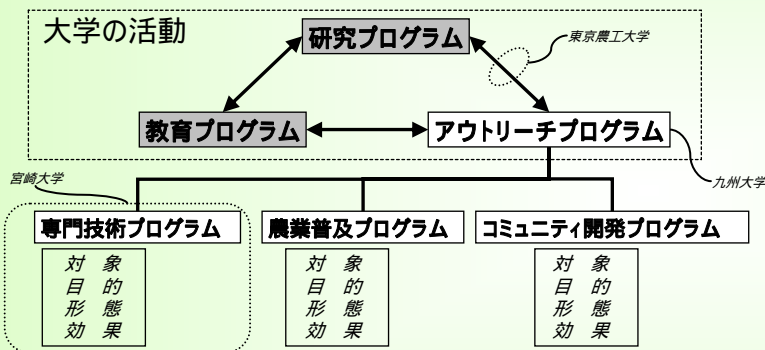
## 目的

途上国の大学に蓄積された知識や大学で開発された技術は社会に波及するか

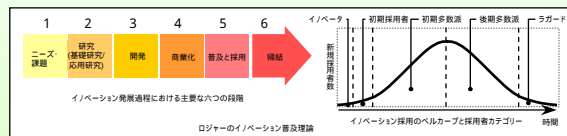
## 調査・検証

- (1) どのようなアウトリーチプログラムが組まれているか
- (2) 大学アウトリーチ機能とその検証

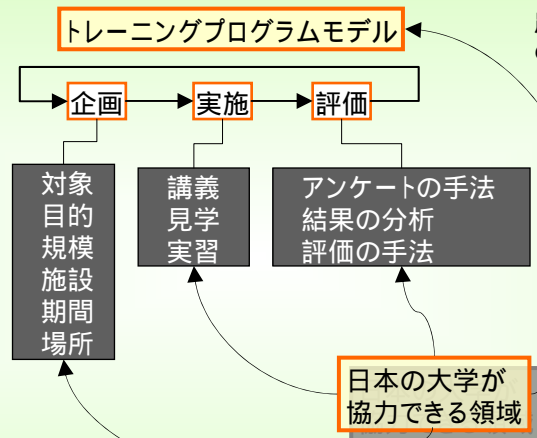
途上国の大学に蓄積されている知識技術リソースの解明  
 大学で実施されている研究開発の実態調査  
 大学で実施されている普及・波及活動の実態調査



既存の普及理論 / モデルとの検討  
 イノベーション普及理論  
 キャズム理論  
 Training & Visit System  
 Participatory Rural Appraisal  
 ...



## 展望



農学 / 獣医学系での国際教育協力の組織的展開

- パッケージプログラムの提示
- プログラム・アドバイス
- 講師派遣
- 手法の技術移転
- 教材開発
- 大学間連携